

論文内容の要旨

専攻名	多文化社会学 専攻	氏名	季 嘉珮
題名	在日華人子女に対する中華文化の教育と伝承に関する研究 —長崎における華人子女を対象に—		
<p>論文内容の要旨</p> <p>本論文の目的は、華人子女とその家族の教育活動、および生活実態を「多文化共生」の視点から考察することである。具体的には、長崎における華人華僑の子どもの生活実態調査を通じて、①日本の学校にどのように適応していくのか、②民族文化についての理解とアイデンティティの構築プロセスを歴史的、実証的に検討した。これらの考察結果から、華人教育の問題、および多文化・多民族化社会における教育の課題や意義を明らかにした。</p> <p>論文の構成と要旨は以下の通りである。</p> <p>長崎における老華僑の子女は、地域活動を通して民族文化を伝承すると同時に、華僑華人のアイデンティティを再構築してきた。第1章では、長崎における戦前戦後を通じた華人社会の変遷のなかでの華僑文化（「春節祭」など）の歴史的な位置づけと、華人子女の社会的な役割について考察した。これにより、長崎の華僑華人が現地社会に定着する一方で、他方では民族意識の低下が進んでいる事実を明らかにした。考察結果をもとに今後、さらに長崎華僑の社会組織の機能が後退していく可能性と、民族文化が教育における重要な要素であることを指摘した。</p> <p>第2章では、戦前の初期華僑華人社会における教育活動と、華僑学校について考察した。初期華僑華人の家庭教育と講学活動のなかで、唐寺が果たしてきた長崎華僑華人教育における重要な役割について明らかにした。伝統文化、風俗習慣は初期華僑華人の教育活動を通して、長崎と日本社会の文化の発展にも少なからず貢献してきた。その後、近代に設立した東京、横浜、神戸、長崎の中華学校と日本社会のかかわりについて歴史的な経緯を考察した。特に、長崎時中小学校は、横浜と神戸にそれぞれ誕生した近代中華学校の発展に寄与した。これらの歴史的な歩みを踏まえて、民族教育から華文教育への変遷に伴う教育内容を考察した。具体的には、①教育対象、②教育目的、③教育方針—各面の変化から従来の「華僑教育」と現在を比較した。これらの比較考察により、「華文教育」が、日本における華人華僑の多元的な教育体制の一翼を担っていたことが確認できた。第3章では、華人子女のアイデンティティと教育の関連性を</p>			

氏名	季 嘉玥
----	------

テーマに考察を加えた。アイデンティティに関する社会諸理論を考察枠組みに応用し、インタビュー調査を実施した。この結果を分析し、長崎の華人子女の「現地化」の進展と、アイデンティティ、コミュニケーションに対する民族教育の重要性を浮き彫りにした。

第4章においては、日本における多文化教育の必要性と視点から在日華人教育について考察した。在日中華学校は、すなわち日本の華人教育は、日本の多文化教育の一部を構成している。グローバルな世界では現在、移民統合や難民をめぐる問題の深刻化、テロ事件の続発、極右勢力の拡大などの問題によって、とくに欧米諸国の多文化主義が動揺している。日本の多文化教育においても、「移民・難民子女への言語教育」を「移民・難民子女を含む国民全体の言語教育」へとシフトする必要性を論述することにより、多文化・多言語教育の課題を提示した。さらに、長崎市内の3つの小学校で実施した参与観察とインタビュー調査の結果、外国人の子どもに対する母語教育のサポートが欠如している現状が明らかになった。このほかに、多文化教育の視点から華人教育の課題を整理した。具体的には、①少数民族出身の子どもと不法滞在者の子どもに対する教育上の配慮、②中華学校数の不充実、多様化する生徒ニーズへの対応の二点を抽出した。中国伝統文化に関連する教育をより充実させる必要があり、特に長崎の華人教育においては、唐寺と伝統祭祀的な教育機能の復興が最重要課題として提示した。

以上のように、本論文においては、華人教育の歴史的な軌跡と華人教育の考察から、多文化・多民族化社会における普遍的な課題について論じた。在日華人教育の先行研究の地域対象は、関東や関西あるいは東海地域に集中している。九州など地方圏の華人教育研究は現時点で希少である。それゆえ、長崎を主な研究対象に据えた本研究をさらに発展させ、九州および地方圏の非集住地域における外国人子どもの教育と生活実態を調査・分析し、教育ニーズを提示することが今後の課題である。こうした発展的な研究に、在日韓国・朝鮮人教育と在日華人教育を比較考察という新機軸を加えて、日本における外国人の子ども教育の問題と将来課題を抽出し、外国人教育の理論研究に貢献したい。